

# 稲城野草散策の会

野草スケッチ ツリフネソウ (ツリフネソウ科)



1996/10/06 稲城市百村 絵と文 Ta

ツリフネソウは観察会での人気が高い花だ。  
目立つ色と独特の形、希少価値もあるのだろう。  
ツリフネソウがあると皆足を止めてカメラを取り出したりする。

タネが弾けるのが面白くて、さわりまくる人がいる。

---

会報第83号 2011年11月20日発行 発行責任者 尼子 房夫

熟してパンパンになった実に触れると、瞬間的に果皮が弾けて種子を飛ばすのだ。最初のうちは指先で恐る恐るさわっていた人も、そのうちに数個の果実をわしづかみにする。掌の中にタネが当たって、痛いほどだといって喜んでいる。

ツリフネソウの属名に使われている「インパティエンス」とは、心があせってがまんできないという意味なのだそう。

種子がはじける様を言い表しているのである。

稲城には数箇所、ツリフネソウが見られる場所がある。

たいていは水に近い場所なのだが、南山の放置された畑に群生しているのを見たことがあった。

土が柔らかく、極端に乾燥さえしなければ、がんばって？生えるようである。

信州にいたころは、高原の花だと思っていたが、東京近辺の暑さにも耐えている。

ツリフネソウには距（きょ）がある。

距というのは、花の後ろに伸びた管のような部分で、ここに蜜がたまっている。

花を訪れた昆虫は正面から花の中へ入り込み、奥まで潜っていく。

そのときに、花粉をお土産に貰うわけだ。

ところが、玄関から入らずに、裏口へ忍び寄り、距に穴をあけて蜜を盗む昆虫もいるそうである。

せこいやつはどこの世界にもいるということであろうか。

もっと怖い話を聞いた。

東京都港区白金に国立科学博物館付属の自然教育園がある。

都会のど真ん中にあるオアシスのような公園で、何度か観察に出かけたことがある。

ここにもツリフネソウ咲いている。

ところが、最近、距のない花が目立つそうである。

欠陥遺伝子を持ったツリフネソウが、淘汰を受けることなく、はびこってきたのだ。

原因は、正規の「花粉運び人」トラマルハナバチが都心にはいないことにあるという。

ツリフネソウは、トラマルハナバチに花粉を運んでもらえるよう、花の構造を変化させて、いまの形になった。

他の昆虫は蜜にありつくことが困難なよう、距という仕組みを作ったのだ。

ところがトラマルハナバチがいない環境では、セイヨウミツバチなどが花粉を食

料として運搬し、受粉させる。

そうすると、距がなくとも（欠陥遺伝子であっても）受粉に関して不利ということはない。

かくて、距を持たないものが次第に増えてきた・・・のだそうである。

この話は田中肇さん（ノアザミの項参照）から、講演会でお聞きした。

田中さんのことだから、自然教育園へ何日も通って、実際にどんな昆虫がきているか、観察した結果を踏まえてのお話に違いない。

生態系のバランスという言葉をよく聞くが、私などはどちらかという観念的に捉えていただけだったような気がする。

実態を自分の目で確かめることは簡単なようで、実際には難しいことだ。

私自身、ツリフネソウの話に感銘を受けて、シーズンになったら自然教育園へ行こうと思ったのだが、いまだ果たしていないような体たらくである。

このスケッチは南山入り口の休耕田で描いた。

稲城のツリフネソウには距のない奇形は出現していないようである。

なお、距のないツリフネソウについては「花と昆虫がつくる自然」（田中肇著・保育社）にも載っているので参考にしてほしいと思う。

（2000年9月記）

\* \* \* \* \*

## 〔観察記録〕 10月23日 奥多摩溪谷

8月は1泊バスハイク、9月定例は台風により中止だったので、実に3ヶ月ぶりの定例観察会になりました。

数日前の肌寒さを南からの風が吹き払ったため、日差しこそなかったものの、少し蒸し暑さを感じるような1日でした。

中央線奥多摩駅に集まった方々は33人。奥多摩駅を出発すると、橋を渡って多摩川の右岸側に回ります。しばらく自動車道路を歩いてから、右に登る狭い道に入りました。道は林の中をダラダラと登り続けます。1時間ほど歩くと急に左右が開け、右側には小さな集落、左側には白く濁った水を湛えた溜池らしきものが一望できます。おそらくその先にある氷川発電所用の水をためておくための池でしょう。ここからは一気に下りとなり、多摩川の支流である海澤川に出ます。この辺り一帯は海澤という集落のようです。川縁には釣り堀兼釣った魚を焼いて提供する食堂があり、焼き魚の良い匂いが流れてきます。この周辺には小さな休

憩所とトイレがあるので、昼食タイムとなりました。

午後はそのまま先に進みます。道がだんだん細くなり、道路の舗装も途絶えます。左側からだんだん多摩川が近づいてきて、目の下に迫ってきます。とはいっても、ずっと鉄柵が張られているため、特に危険というわけではありません。右側は崖がそびえていて、あちこちで水がしたたり落ちてきます。この道は「数馬峡遊歩道」というのだそうです。トンネルをくぐったり、幾度か階段でのアップダウンを繰り返しながらちょっと開けた場所に出ると、多摩川を渡る数馬峡橋があります。

この橋を渡れば目の前に白丸駅・・・とはいきません。電車ははるか高台を走っていました。途中、元禄期に穿たれたといわれる「数馬の切通し」を見物しながら、駅への坂道を登りました。

#### ▼観察記録（番号純）

(1)ケヤキ、(2)ミズキ、(3)コバノタツナミソウ、(4)コバノヒノキシダ、(5)ヤマヤブソテツ、(6)ツルマンネングサ、(7)コンニャク、(8)ウド(花)、(9)ホトケノザ(花)、(10)コムラサキ(実)、(11)ノキシノブ、(12)ノコンギク(花)、(13)シロヨメナ(花)、(14)ジュウガツザクラ(花)、(15)ヤクシソウ(花)、(16)ヌルデ、(17)キブシ、(18)コアカソ(花)、(19)アオミズ(花)、(20)セキヤノアキチョウジ(花)、(21)シラネセンキュウ(花)、(22)カラムシ、(23)エゴマ(花)、(24)カラスノゴマ(実)、(25)ツリフネソウ(花)、(26)タイアザミ(花)、(27)ハナタデ(花)、(28)キバナアキギリ、(29)ミドリヒメワラビ、(30)ワラビ、(31)ウツギ、(32)サラシナショウマ(花)、(33)カノツメソウ、(34)ナギナタコウジュ(花)、(35)ミツバウツギ、(36)ヒヨドリジョウゴ(実)、(37)シラヤマギク(花)、(38)オオバショウマ(実)、(39)コアジサイ、(40)サンショウ、(41)オオバノイノモトソウ、(42)ヤマイタチシダ、(43)ゲンノショウコ(花)、(44)フサザクラ、(45)タマアジサイ、(46)イワガネソウ、(47)タニソバ(花)、(48)アブラチャン(実)、(49)カツラ、(50)ゲジゲジシダ、(51)チカラシバ、(52)ヤマゼリ(花)、(53)ヘクソカズラ、(54)ノハラアザミ(花)、(55)イワウメツル、(56)クラマゴケ、(57)イヌショウマ(花)、(58)ウバユリ(実)、(59)ヤマジノホトトギス、(60)ウリノキ、(61)マタタビ、(62)モミジイチゴ、(63)メナモミ(花)、(64)クジャクシダ、(65)クサノオウ(花)、(66)ヤマノイモ、(67)ダイコンソウ(花)、(68)マツカゼソウ、(69)コウゾリナ(花)、(70)ヤブマメ(花)、(71)シオデ、(72)サルトリイバラ、(73)ミツバツツジ、(74)ヤマグルマ、(75)ヌスビトハギ(花)、(76)アキノノゲシ(花)、(77)コメナモミ(花)、(78)ミゾホオズキ(花)、(79)キツネノボタン(花)、(80)コブナグサ、(81)ミズ(花)、(82)ヒロハコンロンソウ、(83)イワヒバ、(84)カタヒバ、(85)キツタ、(86)ボタンツル、(87)マルバマンネングサ、(88)アシボリ、(89)ウメモドキ(実)、(90)イノモトソウ、(91)コシオガマ(花)、(92)イワタバコ、(93)ミズメ、(94)キハギ、(95)フクロシダ、(96)マメツタ、(97)ヤマコウバシ、(98)ウチワゴケ、(99)ダンコウバイ、(100)ガクウツギ、(101)コウヤコケシ

ノブ、(102)ツルリンドウ(実)、(103)バイカツツジ、(104)ハクモウイノデ、  
(105)ツルニンジン

## 〔行事予定〕 2011/12/18 (日) 焼き芋大会

項目	説明
集合	午前10時、京王相模原線京王よみうりランド駅 ※会旗目標 京王よみうりランド駅の改札口は一個所だけです
交通	京王線調布駅から相模原線橋本行快速または各停で3駅目 京王よみうりランド駅には急行は停まりませんのでご注意ください
行く先 (解散場所)	稲城市穴沢天神での恒例・焼き芋大会です。穴沢天神で解散。最寄 駅は京王よみうりランド駅です 焼き芋準備グループと観察グループの2班に分かれて行動する予定 です
見所・その他	たき火(^_^) 冬芽、常緑シダなども観察します 当会の忘年会を兼ねます。芋、酔い子の飲み物などは幹事が用意し ます。差し入れ大歓迎!!
コース	観察グループのコース： 駅前～よみうりランド遊歩道～小沢城址～穴沢天神（焼き芋大会） （解散：15時30頃）

※雨天決行 参加申込み不要、会費当日500円

## 〔行事予定〕 2012/1/15 (日) 黒川・行事計画

項目	説明
集合	am10時、小田急多摩線・黒川駅南口階段下 ※会旗目標 改札口は一個所だけです
行く先 (解散場所)	午前中は黒川の谷戸で七草摘みをします。 午後は2012年度の行事予定を検討し、pm4時頃解散予定
コース	黒川駅→汁守神社→(黒川の谷戸で七草摘み)→汁守神社→(移動) → <b>場所未定</b> (12時半ころより昼食後行事予定検討)(解散・・・ 16時ころ) コースは天候その他により変更する場合があります

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円。

〔行事予定〕 2011/11/20 (日) 城ヶ島

項目	説明
集合	京浜急行線・三崎口駅 改札口付近 am10時 ※会旗目標 改札口は一個所だけです
交通	京浜急行線品川駅から快速特急三崎口行き8:37発、三崎口駅9:52着。または快速特急三崎口行き8:47発、三崎口駅9:59着 をご利用下さい。 三崎口から城ヶ島行きのバス10:09に乗りますので、これに遅れないようにお願いします(電車・バス料金は各自負担)
行く先 (解散場所)	城ヶ島一周・京浜急行線三崎口駅 pm4時頃解散予定
見所 その他	タブ、ヤブニッケイ、トベラ、イヌビワ、フウトウカズラなど、照葉樹林の樹木。イソギク、ワダン、ハナイソギク、ラセイタソウなどの海浜植物。波食台、しゅう曲、断層、炎状構造などの地層
地図	
コース	三崎口駅→(バス)→城ヶ島バス停(終点)～みやげもの街～長津呂～海岸～馬の背洞門～同じ道を通ってバス停へ戻る(解散) コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円